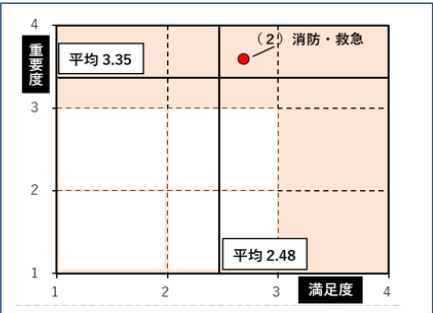


【めざす姿】 火災や急病などで人命が失われない

■まちづくりアンケート調査結果(点)					年代別内訳(点)				
指標	R7	R8	R9	R10	R7平均	20代以下	30～40代	50～60代	70代以上
現在の満足度	2.69	0	0	0	2.48	3	2.49	2.6	2.83
今後の重要度	3.6	0	0	0	3.35	3.7	3.64	3.73	3.44



■横断的な取組の進捗CHECK㊟

みんなのテーマ	進捗状況	評価の理由
豊かなひとづくり 「こどもが育つ、大人も育つ」	3(計画通り進めている)	消防の啓発・教育活動が「こどもも大人も共に防災の担い手として成長する機会」として機能しており、「人命を失わない街」の土台となる人づくりを着実に進めることができています。
継承と変革 「持続可能なまちを未来に引き継ぐ」	3(計画通り進めている)	社会構造や環境が激変するなかにあっても、消防の予防・啓発の取り組みが、まちの物理的な資産とコミュニティの安心を未来へつなぐ「防波堤」として機能しています。
これからの自治 「つながりを結び直す」	3(計画通り進めている)	社会の変化に伴い、失われつつあった地域の「結びつき」を、消防の訓練や啓発活動が媒介となって現代的な形へアップデートし、強固なものへと再編(結び直し)できています。

■基本事業(具体的な取組)CHECK㊟

基本事業番号	キーワード	めざす姿	具体的な取組 (PLAN)	事務事業 (DO)	効果検証 (CHECK)	指標番号	成果指標名	成果指標の説明	単年／累計	現状値	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	目標値	成果指標の進展度	所管課	事務事業改善案 (ACTION)	基本事業の進捗																								
①	消防	持続可能な消防体制を構築します	・消防本部組織再編計画に基づき、分署の統合等により、常備消防力を強化します。 ・地震等に備えた消防水利の耐震化を進めます。 ・火災予防広報を強化し、特に空気が乾燥して風の強い時には、より積極的な広報と声掛けを行い、枯草火災が起こらないようにします。 ・住宅や事業所の火災予防のため、防火指導や立入検査を強化します。 ・第3次消防団活性化計画に基づいて、老朽化した車両やポンプ庫の整備を進めながら、組織の効率化を図り、活動のあり方を見直し、消防団員がやりがいを感じて、あらゆる災害に対応できる組織づくりを消防団とともに進めます。 ・伊賀市・名張市消防連携・協力体制により柔軟に対応しながら、消防力を強化し、将来的な消防本部の在り方を研究します。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>402</td><td>水防経費</td></tr><tr><td>401</td><td>消防水利等整備事業</td></tr><tr><td>400</td><td>非常備消防施設等整備事業</td></tr><tr><td>398</td><td>常備消防施設等整備事業</td></tr><tr><td>397</td><td>消防本部組織再編経費</td></tr><tr><td>395</td><td>消防団本部管理経費</td></tr><tr><td>394</td><td>共同消防指令センター運営事業</td></tr><tr><td>393</td><td>共同消防指令センター整備事業</td></tr><tr><td>391</td><td>消防職員研修経費</td></tr><tr><td>390</td><td>常備消防一般管理経費</td></tr></table>	整理番号	事業名	402	水防経費	401	消防水利等整備事業	400	非常備消防施設等整備事業	398	常備消防施設等整備事業	397	消防本部組織再編経費	395	消防団本部管理経費	394	共同消防指令センター運営事業	393	共同消防指令センター整備事業	391	消防職員研修経費	390	常備消防一般管理経費	[効果が出ている点] ●消防本部組織再編計画については、消防署所適正配置検討委員会を4回開催し、中間案を取りまとめました。 ●消防水利については、消防本部消防水利の整備に関する基本方針に基づき消防水利を整備し、第2次総合計画のKPIを達成しています。 ●立入検査については、予防課・警防課が連携し、重大な消防法令違反の是正ができました。 ●消防団の活性化計画については、消防団車両更新整備の本年度分7台の配備(進捗100%)を完了しましたが、他の消防団車両の老朽化が進んでいます。 廃止統合ポンプ庫の本年度予定分の除去工事を完了しました。(進捗100%) 3次計画実行状況の振り返りと分団の状況の聞き取りを並行して行いました。(進捗100%) ●伊賀市・名張市消防連携・協力体制については、共同消防指令センターが効率よく運用できています。 [新たな課題] ●消防本部組織再編計画については、市民の意見を反映したものとするため、パブリックコメントを実施することとしたことから、年度内に答申を受けることが不可能となりました。 ●消防水利については、充足率が低い地域があるものの、土地利用等の条件が整わず、新たな整備が難しい現状です。 ●火災予防については、4月以降、枯草焼却などが原因の火災が34件発生し、特に雨量の少なかった9月と令和8年2月には「枯草火災多発非常事態宣言」を発表し、ホームページやハザードンで周知も行い防火広報も強化しましたが、著しい減少は見られませんでした。原因の分析が必要です。 ●立入検査については、計画的に実施しましたが、重大な違反の是正に時間がかかり目標の実施件数に達していません。 ●伊賀市・名張市消防連携・協力体制については、今後は両市とも無線の更新が課題となっています。	I	出火率(件／万人)	人口1万人あたりの出火件数	単年	R6.12.31 7.8件／万人	R7.12.31 10件／万人						R10 5件／万人	×進まなかった (70%未満)	消防本部 消防総務課 予防課 地域防災課 通信指令課 伊賀消防署 管理課 消防救助課	●消防本部組織再編計画については、東分署と阿山出張所の統合庁舎建設事業に係る予算を確保し、事業を進めていきます。基本構想についてのパブリックコメントを実施し、市長の答申後、基本構想に基づき、東分署と阿山出張所の庁舎統合基本計画を策定し、予算要求を行います。 ●消防水利については、消防水利の設置経緯などを含めた実態を把握し、課題整理を行った上で、消防本部消防水利の整備に関する基本方針の改正を行います。 ●火災予防については、従来の火災予防広報に加え、林野火災・枯草火災防止のため、火災予防条例の改正に伴う林野火災注意報、警報の発令等により火入れなどの火の取扱いの制限を行うなど、多面的に強化体制を維持します。 ●立入検査については、引き続き、予防課と消防署が連携し、重大な消防法令違反をたなくすために立入検査を進めていきます。 ●消防団の活性化計画については、第4次計画の策定に向けて、各分団と地域の話し合いができる環境を整えます。車両更新計画に基づき新たな車両を購入し、老朽化した車両を処分します。 ●伊賀市・名張市消防連携・協力体制については、計画的な無線設備の更新に向けた検討を開始します。	○計画通り進めている (85%以上100%未満)
				整理番号	事業名																																						
				402	水防経費																																						
				401	消防水利等整備事業																																						
400	非常備消防施設等整備事業																																										
398	常備消防施設等整備事業																																										
397	消防本部組織再編経費																																										
395	消防団本部管理経費																																										
394	共同消防指令センター運営事業																																										
393	共同消防指令センター整備事業																																										
391	消防職員研修経費																																										
390	常備消防一般管理経費																																										
II																																											
III																																											
②	救急	安心できる救急体制を構築します	・救急車の現場到着平均所要時間を短縮するため、消防本部組織再編計画に基づき、救急出動の多い時間帯を補完する日勤救急隊を追加配置します。 ・名張市との連携協力により、救急車がすべて出動した後を補完します。 ・救急救命士養成計画を策定し、救急救命士の高度な知識・技術の習得のため、各種研修を推進します。 ・救命講習の新規受講者を増やすため広報を強化し、やさしい日本語での開催により外国人住民が参加しやすい講習会とします。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>399</td><td>救急自動車整備事業</td></tr><tr><td>392</td><td>救急活動関係経費</td></tr></table>	整理番号	事業名	399	救急自動車整備事業	392	救急活動関係経費	[効果が出ている点] ●名張市との連携・協力体制については、救急隊がすべて出動した後の補完体制が効果的に運用できています。 ●救急救命士の育成については、救急救命士養成計画に基づき1名を育成しました。(進捗100%) ●応急手当普及については、定例救命講習新規受講者が309名となり目標を達成(進捗100%)しました。外国人住民に対する応急手当講習は3回実施し目標を達成(進捗100%)しました。広報についても伊賀市ホームページを毎月更新し「広報いが」にも毎月掲載しました。 [新たな課題] ●令和7年の平均現場到着時間は10.9分で、昨年より0.1分延長し未達成となりました。原因は、平日の日中に伊賀消防署管内での救急要請が多く、各分署からの応援出動で対応していることが考えられます。	I	救急車の現場到着平均時間	119番通報を受けてから現場に到着するまでに要した時間	単年	R6.12.31 10.8分	R7.12.31 10.9分					R10 9.8分	×進まなかった (70%未満)	消防本部 消防総務課 通信指令課 伊賀消防署 管理課 消防救助課	●令和8年度よりデイトタイム救急隊の運用を開始することにより、平日の日中に集中する伊賀消防署管内の救急要請に対応し、各分署からの応援出動を減らすことによって現場到着平均時間の短縮を図ります。 ●名張市との連携・協力体制は、引き続き救急隊の補完体制を効果的に運用します。 ●救急救命士の育成は、救急救命士養成計画に基づき育成していきます。 ●応急手当普及は、引き続き定例救命講習と外国人住民に対する応急手当講習を実施します。	○計画通り進めている (85%以上100%未満)																	
				整理番号	事業名																																						
				399	救急自動車整備事業																																						
				392	救急活動関係経費																																						
II																																											
I																																											
II																																											
③						I																																					
④						I																																					

◆令和7年度外部評価				
項目	評価		所見	その他の意見等
(1)効果検証の適正性				
(2)事務事業改善案の妥当性				
(3)施策の進捗状況				

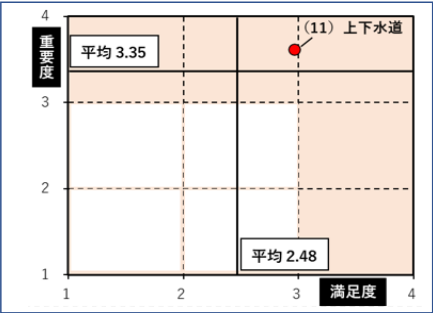
【施策】

2-8

上下水道

【めざす姿】安全でおいしい飲み水と、美しい水環境を守る

■まちづくりアンケート調査結果(点)						年代別内訳(点)			
指標	R7	R8	R9	R10	R7平均	20代以下	30～40代	50～60代	70代以上
現在の満足度	2.96	0	0	0	2.48	3.28	2.91	2.89	3
今後の重要度	3.62	0	0	0	3.35	3.61	3.63	3.7	3.54



■横断的な取組の進捗CHECK②

みんなのテーマ	進捗状況	評価の理由
豊かなひとづくり 「こどもが育つ、大人も育つ」	3(計画通り進めている)	小学生をはじめとする市民を対象に、上水道や下水道の施設見学を実施しています。施設見学を通じて、上下水道の仕組みの習得や水循環・環境に関する学習を進めるとともに、上下水道が自分たちの生活環境を豊かにし、守ってくれる重要な施設であるとの認識を高めるなど、複合的な効果の向上につながる取り組みを実践しています。
継承と変革 「持続可能なまちを未来に引き継ぐ」	3(計画通り進めている)	施設の耐震化、老朽化に対応した長寿命化、統廃合などの各種事業を計画的かつ効果的に実施することにより、施設を持続的に維持する取り組みを進めています。
これからの自治 「つながりを結び直す」	3(計画通り進めている)	出前講座による住民との直接的な対話に加え、市民夏祭りには、上水道の水源となる川上ダムの管理所と上下水道部が一体となり、水をテーマとしたインフラ連携イベントとして参加しています。これらのさまざまな機会を通して、川上から川下までの水循環の仕組み全般について直接市民に発信し、市民とのつながりを醸成しています。

■基本事業(具体的な取組)CHECK①

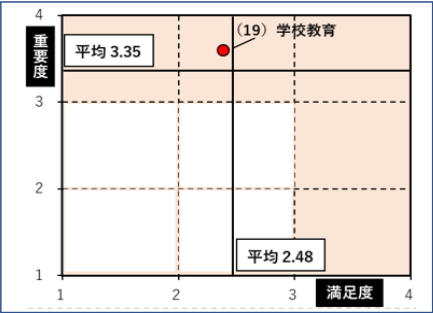
基本事業番号	キーワード	めざす姿	具体的な取組 (PLAN)	事務事業 (DO)	効果検証 (CHECK)	指標番号	成果指標名	成果指標の説明	単年／累計	現状値	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	目標値	成果指標の進展度	所管課	事務事業改善案 (ACTION)	基本事業の進捗	
①	上水道	安全で持続的な水道水の供給を行います	・水道事業基本計画及び経営戦略を見直し、改めて老朽施設の統廃合による事業の効率化や水道料金の見直しの必要性について、検討を進めます。 ・水道耐震化・更新計画に基づき国の補助事業を活用し、重要給水施設への配管を中心に耐震化を進めるほか、老朽管の更新を進めます。 ・漏水の多い配水系統別に詳細な漏水調査を実施し、有収率の改善を進めます。	整理番号 事業名 参照するレコードがありません。	[効果が出ている点] ●令和7年度において、「伊賀市水道事業基本計画」及び「伊賀市水道事業経営戦略」の改定に着手し、経営戦略の改定版を策定しました。この結果、各種施設の統廃合に加え、料金制度の見直し等が財源確保の手段として新たな検討事案となります。 ●令和7年度は重要給水施設配水管事業と水道施設整備事業で0.9kmの更新工事を行ったことで、耐震管路の延長は136.1kmとなり、水道管総延長(1,372km)に占める割合(耐震化率)が9.92%となりました。また、重要給水施設である上野総合市民病院までの耐震管路整備が完了し、市役所方面に向けて耐震管路整備を0.2km実施しました。 ●令和7年度に漏水の多い配水系統別に南部配水池、北部配水池、三田配水池系統を重点的に現地漏水調査を実施し、有収率向上に一定の効果がありました。 [新たな課題] ●市域が広く事業費も多額となるため、財源を確保しつつ計画的に進める必要があり、耐震化事業の進捗や有収率の向上は短期間で大幅な改善を見込めません。	I	有収率	配水池から給水する配水量に対して料金徴収の対象となる有収水量(生活用水量、工業用水量、業務・営業用水量など)の割合 ※有収水量/配水量×100	累計	R6.9.30 80.1%	R7.9.30 81.2%					R10 85%	○ある程度進んだ (85%以上100%未満)	上下水道部 経営企画課 水道工務課 水道施設課	●令和7年度に引き続き「伊賀市水道事業基本計画」の改定に取り組んでいきます。また、各種施設の統廃合を進めるとともに、具体的な料金制度の見直しを行うことで、経費削減および更新財源の確保につなげます。 ●令和6年度に策定した伊賀市水道耐震化・更新計画に基づき国の補助事業を最大限に活用しながら、重要給水施設への配管を中心に耐震管路整備を進めます。令和8年度は昨年度に引き続き重要給水施設の一つである青山中学校への耐震管路整備を実施します。 ●令和7年度に漏水の多い配水系統別に現地漏水調査を実施し一定の効果があったため、令和8年度も引き続き漏水の発生頻度が高い南部・北部配水系統、三田配水池系統、朝古川配水池系統に加え、夜間最小流量が大きく漏水が疑われる阿保配水池系統を重点的に調査を行い有収率の改善を進めます。	○計画通り進めている (85%以上100%未満)
						II														
						III														
②	下水道	汚水処理人口普及率の向上を図り、快適な生活環境で暮らせるまちづくりを進めます	・生活排水処理施設の見直しを行い、計画的に工事を実施します。 ・持続可能な下水道事業運営のため、新たな官民連携方式であるウォーターPPPの導入に向けて検討を進めていきます。 ・合併処理浄化槽事業では、補助金を活用した事業を推進し、し尿汲取り式や単独処理浄化槽を利用している家庭への更なる転換の促進を図るため、2026(令和8)年度まで補助金の加算措置を行っています。 ・市街地では、住み良い都市環境の整備として、課題となっている背割り水路の問題や既設排水路の整備や浸水対策について検討を進めます。	整理番号 事業名 385 緑ヶ丘都市下水道浄化施設維持管理経費 383 下水道等整備事業 市街排水路管渠老朽化対策事業 382 下水道等維持管理経費 257 合併処理浄化槽設置及び管理事業	[効果が出ている点] ●令和4年度から実施している西高倉・西山処理区の統廃合事業は、令和8年度中に完了する見込みです。 ●し尿汲取式および単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換事業では、令和4年度から転換加算補助制度を新設し、普及促進を行っています。令和7年度は、全申請件数184件のうち37件で当該制度を活用していただきました。 ●下排水路事業については、施設の老朽化等の課題解決に向けた雨水整備基本構想の策定に向けて、現地調査業務などを実施しました。 [新たな課題] ●汚水処理施設を多数抱える中、施設統廃合事業は、国庫補助金の確保を前提とする財源構成に加え、物価や労務単価の上昇に伴う工事費増により、計画どおりの進捗を見込めません。	I	汚水処理人口普及率	各年度末時点の行政人口に対し、公共下水道、農集、コミブラ、合併処理浄化槽等の生活排水処理施設を利用できる人口割合(汚水処理施設使用人口/行政人口)×100	累計	R6 84.6%	R7 84.8%					R10 85.4%	○ある程度進んだ (85%以上100%未満)	上下水道部 経営企画課 下水道課	●令和8年度完了予定の西高倉・西山処理区の統合と合わせて行っている島ヶ原処理区の統廃合事業については、令和10年度の事業完了に向けて、事業の進捗を図ります。 ●し尿汲取式及び単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換事業では、令和8年度に転換加算補助制度が終了となることから、年度当初から事業終了の啓発を行うとともに、駆け込み申請へ対応します。 ●下排水路事業については、施設老朽化等の課題解決に向けた雨水整備基本構想を策定し、事業手法を確立します。	○計画通り進めている (85%以上100%未満)
						II														
③						I														
						II														
④						I														

◆令和7年度外部評価

項目	評価	所見	その他の意見等
(1)効果検証の適正性			
(2)事務事業改善案の妥当性			
(3)施策の進捗状況			

【めざす姿】こどもたちが、未来に夢や希望を持つことができる

■まちづくりアンケート調査結果(点)					年代別内訳(点)				
指標	R7	R8	R9	R10	R7平均	20代以下	30～40代	50～60代	70代以上
現在の満足度	2.38	0	0	0	2.48	2.42	2.25	2.4	2.45
今後の重要度	3.6	0	0	0	3.35	3.79	3.65	3.68	3.46



■横断的な取組の進捗CHECK②

みんなのテーマ	進捗状況	評価の理由
豊かなひとづくり 「こどもが育つ、大人も育つ」	3(計画通り進めている)	保護者、地域、学校と話し合いの場を設け、子どもたちの資質や能力を引きだせるような望ましい小中学校の教育環境の整備に取り組んでいます。
継承と変革 「持続可能なまちを未来に引き継ぐ」	3(計画通り進めている)	公務用端末の活用により、出席確認等をスムーズに行うことができ、保護者、教員ともに負担軽減となりました。
これからの自治 「つながりを結び直す」	3(計画通り進めている)	保護者と学校だけでなく、地域とともに児童生徒を育てていくという考えのもと、望ましい小中学校の教育環境の整備に取り組んでいます。

■基本事業(具体的な取組)CHECK①

基本事業番号	キーワード	めざす姿	具体的な取組 (PLAN)	事務事業 (DO)	効果検証 (CHECK)	指標番号	成果指標名	成果指標の説明	単年／累計	現状値	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	目標値	成果指標の進展度	所管課	事務事業改善案 (ACTION)	基本事業の進捗
①	学校教育	確かな学力の保障、人権・同和教育の充実、キャリア教育の推進を3本柱にこどもたちの進路保障に取り組むとともに一人ひとりのニーズに合った支援を行います	・各学校(園)がマニフェストを作成し、公表・評価、改善を行い、学校経営の質の向上に努めます。 ・各学校で全国学力調査の結果から学力の定着状況を的確に把握・分析し、授業改善を行います。 ・読書活動推進のため、学校図書館司書の配置等の環境整備に取り組めます。 ・すべての学校で発達障がい の通級指導が可能となる体制を整備します。 ・通常学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒についても、「個別の指導計画」等を作成します。 ・教育支援センターの充実と校内教育支援センターの設置を促進します。 ・民間フリースクール等との連携を図る等、多様な学びを支援していきます。 ・外国人児童生徒の初期適応指導をすべての児童生徒が受けられる体制を整えます。 ・いじめの早期発見、早期対応に取り組めます。 ・給食費無償化の継続と食育推進を図り、地場産食材の優先活用を向上させます。	整理番号 事業名 474 給食センター管理運営経費 473 学校給食管理経費 440 就学奨励費 437 健康管理経費 431 就学奨励費 428 健康管理経費 423 伊賀市教育研究センター管理運営経費 421 教職員研究研修経費 420 読書活動推進事業 419 部活動指導員配置促進事業 418 地域とともに学校マニフェスト推進事業 417 生徒指導推進事業 416 特別支援教育充実事業 415 学力向上推進事業 414 人権同和教育推進事業 413 外国人児童生徒支援事業 412 キャリア教育推進事業 411 英語指導助手招へい 経費 410 不登校児童生徒支援事業 409 教育振興一般経費 408 学校保健管理経費 407 一般管理経費	【効果が出ている点】 ●各学校(園)が作成したマニフェストに沿って、学校経営の質の向上に努めています。 ●特別な支援が必要な児童生徒や不登校児童生徒、外国人児童生徒など、それぞれの個性やニーズにあった支援が進められています。 【新たな課題】 ●教職員の研修等を進めています が、依然として教職員の授業改善等に課題があり、全国学力学習状況調査の中学校の結果は全国平均を下回っています。 ●児童生徒にあった支援が進められていますが、さらなるニーズに対応するため、今後もさまざまな機関と連携していく必要があります。	I	将来の夢や目標を持っている割合	全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙)において「将来の夢や目標を持っていますか」(4月時点)に対して肯定的に回答した小学6年生と中学3年生の割合	単年	R6.4 76.1 %	R7.4 75.6 %				R10.4 80%	○ある程度進んだ (85%以上100%未満)	教育委員会 学校教育課	●教職経験の浅い教職員が増えているため、その教職員に重点を置いて教職員研修を進めます。 ●全学校での通級指導の開始や他機関との関わり の増加によって、これまでよりいっそう連携と情報共有を進めていきます。	○計画通り進めている (85%以上100%未満)
				II		学校改善に努めていると感じる保護者の割合	各学校が実施する学校評価アンケート(保護者用)において「学校は、保護者や地域(学校運営協議会委員等)の意見を取り入れて学校改善に努めている」(12月末時点)と回答した割合	単年	R6.1 2 88.2 %	R7.1 2 88.9 %				R10.1 2 91%	○ある程度進んだ (85%以上100%未満)	教育委員会 学校教育課			
				III															
②	教育環境	個別・最適に学べる教育環境づくりを進めます／学校施設長寿命化計画に基づき、長寿命化の視点に立った施設整備を計画的に行います	・学校みらい構想基本計画に基づき、保護者や地域住民の方とともに、より良い教育環境づくりを進めます。 ・児童生徒の安心・安全な通学を最優先に、通学方法、費用負担を検討します。 ・計画的な端末整備・更新を行うとともに、各計画に基づき、安定・継続したICT環境整備に努めます。 ・多くの学生に奨学金による経済的支援が行き届く環境を整えます。 ・学校施設長寿命化計画に基づき、計画的に事業に取り組み、かつ、適宜修繕を行い施設の機能維持を図ります。 ・老朽化している機器及び設備の更新年次計画を策定します。 ・安定した給食提供のため、センター方式化を進めると共に厨房設備等の維持更新を図ります。	整理番号 事業名 663 給食施設改修事業 660 中学校部活動支援事業 646 いがまち地区中学校区再編事業 645 小学校給食センター建設事業 471 教材・教員整備費 439 施設改修事業 438 学校管理用備品整備事業 436 遠距離通学者等通学経費 435 施設維持管理経費 434 スクールバス運転管理及び維持経費 433 一般管理運営経費 432 教材・教員整備費 430 施設改修事業 429 学校管理用備品整備事業 427 遠距離通学者等通学経費 426 施設維持管理経費 425 スクールバス運転管理及び維持経費 424 一般管理運営経費 422 情報化教育推進経費 406 教職員住宅維持管理経費 405 奨学金等支給経費 404 事務局管理経費 403 委員会管理経費	【効果が出ている点】 ●学習用端末が充実し、視覚や聴覚に訴えるため、楽しみながら学習することができています。 ●学習端末内のアプリでは、教材にルビを振ることができるなど、自分の学力にあわせて提供される教材で学ぶことができることから、家庭学習の充実につながりました。 ●みらい構想基本計画に基づき、早期に検討が必要な学校について、協議を進めています。	I	GIGA端末(タブレット)の活用状況	「ICT活用で楽しみながら学習できているか」のアンケート(4月時点)に対して、肯定的に回答した小学6年生と中学3年生の割合	単年	R6.4 84.9 %	R7.4 87.8%(小6)				R10.4 86.1 %	◎目標以上に進んだ (100%以上)	教育委員会 教育総務課	●令和9年度開校のいがまち中学校区の通学方法の決定後、自転車通学について通学の費用負担の見直し検討を行います。	○計画通り進めている (85%以上100%未満)
				II		施設改善率	児童・生徒が快適に学習できる環境整備として「空調機の未設置教室」や「トイレ洋式化」の改善を行う。	単年	R6.4.1 28.6 7%	R7.4 29.4 %				R10 38.9 7%	◎目標以上に進んだ (100%以上)	教育委員会 教育施設課			
③						I													
						II													
④						I													

◆令和7年度外部評価

項目	評価	所見	その他の意見等
(1)効果検証の適正性			
(2)事務事業改善案の妥当性			
(3)施策の進捗状況			

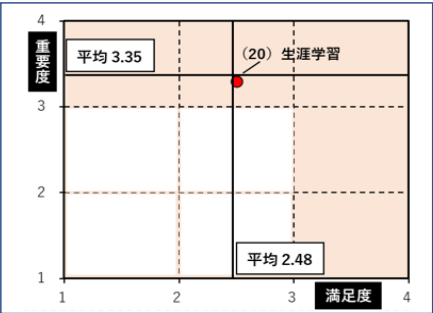
【施策】

3-5

生涯学習

【めざす姿】 生涯を通じ、生きがいをもち活躍することができる

■まちづくりアンケート調査結果(点)									
年代別内訳(点)									
指標	R7	R8	R9	R10	R7平均	20代以下	30～40代	50～60代	70代以上
現在の満足度	2.5	0	0	0	2.48	2.86	2.38	2.5	2.52
今後の重要度	3.3	0	0	0	3.35	3.4	3.3	3.33	3.25



■横断的な取組の進捗CHECK㊟

みんなのテーマ	進捗状況	評価の理由
豊かなひとづくり 「こどもが育つ、大人も育つ」	3(計画通り進めている)	新図書館移転整備並びに移動図書サービスの開始を予定どおり完了できました。 第3次伊賀市生涯学習推進指針を策定し、幅広い年齢層に多様な学びの場を提供できました。 人権にかかる正しい知識や情報を提供し、人権同和教育を推進できました。
継承と変革 「持続可能なまちを未来に引き継ぐ」	3(計画通り進めている)	新図書館が機能拡大して開館することで、市民の学びや交流の拠点となりました。 家庭・学校・地域が一体となり、子どもの居場所づくりや見守り・相談支援を行いました。
これからの自治 「つながりを結び直す」	3(計画通り進めている)	市民とともにつくる図書館を実現するための準備や環境を整えることができました。 生涯学習支援員が地域の特性に応じた生涯学習活動を行うことができました。

■基本事業(具体的な取組)CHECK㊟

基本事業番号	キーワード	めざす姿	具体的な取組(PLAN)	事務事業(DO)	効果検証(CHECK)	指標番号	成果指標名	成果指標の説明	単年／累計	現状値	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	目標値	成果指標の進展度	所管課	事務事業改善案(ACTION)	基本事業の進捗
①	社会教育	学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の実現に向けた取組を進め、ネットワークの構築に繋がります	・こどもから大人まですべての市民が、いつでもどこでも学べる体制づくりを推進し、市民の学習活動への参加意識の高揚を図り、地域で実践する人材を育成します。 ・舞台発表や作品展示など、生涯学習の成果を発表する場や機会の充実を図ります。 ・各地域の住民自治協議会に生涯学習活動事業を委託し、地域における課題解決のための生涯学習事業を展開していきます。 ・各地域の生涯学習推進状況を把握し、研修機会の確保や、社会教育指導員からの指導・助言により、生涯学習支援員の更なるスキルアップを図ります。また、生涯学習支援員の活動内容やその効果について検証を行います。 ・「大人の学び」の場を提供できるよう、関連部署等と連携を取りながら環境整備を行います。 ・人権同和教育を推進するリーダー育成や人権に関する相談体制を充実するために、座談会形式の人権教育学習会や聴講型の人権教育研修会を開催します。 ・教育集会所では、小中学校地区学習会や、高校生・青年の人権学習、識字教室等を開催します。	整理番号 事業名 66120歳のつどい式開催経費 623寺田教育集会所施設改修事業 470教育集会所交流事業 469人権教育推進事業 468教育集会所管理経費 462学校支援地域本部推進事業 458同和教育研究推進事業 448たわらや維持管理経費 447生涯学習推進啓発事業 446社会教育推進経費	【効果が出ている点】 ●第3次伊賀市生涯学習推進指針を策定し、各地域へ生涯学習支援員を配置し、地域住民のニーズに合わせた生涯学習事業を行うことができました。 ●人権啓発推進リーダーの育成や人権の相談体制を充実するため、座談会形式の人権教育学習会や聴講型の研修会を開催しました。 【新たな課題】 ●地域課題に対応できる人材の育成が必要です。	I	生涯学習活動事業における満足度	生涯学習活動事業への参加者にアンケート調査を実施する。	単年	R691.7%	R794%				R1095%	○ある程度進んだ(85%以上100%未満)	教育委員会生涯学習課	●計画通り進め、令和8年度からまちづくりにおける人材育成を目的とした講座を開催します。	○計画通り進めている(85%以上100%未満)
				II		人権問題について正しく学習し、人権教育啓発推進リーダーを育成する機会の確保	人権問題について正しく学習し、人権教育啓発推進リーダーを育成する機会の確保	単年	R6510人	R7569人				R10550人	◎目標以上に進んだ(100%以上)	教育委員会生涯学習課			
				III															
②	青少年健全育成	心豊かで思いやりのある青少年の育成を推進します	・青少年健全育成に係る担い手や見守り役を育てるため、市と団体が連携し、青少年健全育成講演会や街頭啓発等を行います。 ・街頭補導や相談窓口設置と合わせて、7月と11月には、青少年非行被害防止の取組として、青少年健全育成市内一斉活動を実施します。 ・地域・学校・関係団体と連携して、環境浄化活動を行い、清浄な環境づくりに努めます。 ・家庭、図書館、学校等が連携し、こどもが進んで読書に親しめる環境づくりに取り組みます。 ・放課後子ども教室の開設数の維持・増加に取り組むとともに、放課後児童クラブとの連携を検討します。	整理番号 事業名 463青少年センター運営経費 461放課後子ども教室推進事業 460青少年健全育成事業	【効果が出ている点】 ●子どもの読書活動を推進するため、第三次伊賀市子ども読書活動推進計画を策定しました。 ●家庭・学校・地域が一体となり、子どもが心身ともに健康に育つよう、放課後子ども教室等で子どもの居場所づくりや見守り・相談支援を行いました。 ●青少年健全育成講演会やイベント等を開催し、気軽に相談できる窓口など非行防止に向けたの啓発活動を行いました。	I	開催事業数参加人数	青少年健全育成に向けた指導者育成講演会や、こどもと保護者、そして地域がつながりを深められる事業の実施	単年	R64,123人	R74,796人				R104,400人	◎目標以上に進んだ(100%以上)	教育委員会生涯学習課	●計画通り進めます。	○計画通り進めている(85%以上100%未満)
				II		小・中・高校生の不読率	1ヶ月に一冊も本を読まない小・中・高校生の割合	累計	R6.1130小学生9.70%中学生30.90%高校生58.00%	R7(計画策定年度)小学生9.70%中学生30.90%高校生58.00%				R10.11.30小学生6.50%中学生27.70%高校生54.80%	○ある程度進んだ(85%以上100%未満)	教育委員会生涯学習課			
③	図書館	図書館が「学び・創造・憩いの広場」となるよう、図書館機能の拡大とサービスの充実に努め、利用者数の増加を図ります	・居心地の良い空間、多様な閲覧席、自動貸出・返却機の導入など、充実した図書館サービスを行い、利用者の満足度を確認しつつ、分館や移動図書館等と連携し、利便性向上・利用拡大に努めます。 ・移動図書館事業の運営については、地域の意向を踏まえて検討を行います。 ・新図書館の運営事業者と協働しながら、優れたレファレンスを実施し、市民の図書館利用の増加を図ることができる事業や本や郷土に興味を持つことができる事業の企画・運用を行います。 ・読み聞かせボランティア団体の活動支援を継続して行います。 ・団体貸出や電子図書などの利用により地域における読書の輪を広げます。 ・伊賀市読書活動プロジェクトを基本に学校図書館と連携し、読書活動の推進を図ります。	整理番号 事業名 662分館管理経費 466図書室運営管理経費 465図書館管理経費	【効果が出ている点】 ●新図書館の移転整備が完了しました。市民ワークショップや利用者からのご意見を反映できるよう機能を拡大し、多様な目的の利用者のニーズに応えることのできる図書館運営を開始しました。 ●移動図書サービスにおいては、新たに運営を開始する地域への説明や準備を完了しサービスを開始しました。 【新たな課題】 ●新たな運営体制での課題の検証等を行いながら適切な運営を行う必要があります。	I	利用者数	貸出利用者数、学習室利用者数、イベント参加者数、レファレンス件数等の合計値	単年	R683827人	R766680人				R10114000人	◎目標以上に進んだ(100%以上)	教育委員会中央図書館	●新たな運営体制になったことで生じる課題を解消しつつ、計画どおり利用者の増加を図ります。	◎完了(100%以上)
				II		読み聞かせ会等のイベント事業実施回数	読み聞かせ会等のイベント事業実施回数	単年	R6119回	R786回				R10120回	◎目標以上に進んだ(100%以上)	教育委員会中央図書館			
④						I													

◆令和7年度外部評価

項目	評価	所見	その他の意見等
(1)効果検証の適正性			
(2)事務事業改善案の妥当性			
(3)施策の進捗状況			